

一人ひとりの力を引き出せ!



がんばる 推進教員たち

子どもたちの個性を生かしたきめ細かな教育を進めるための「少人数学習推進教員」と「健康推進教員」が市内の小・中学校に配置されてこととして3年目。学校はどのように変わったのでしょうか。子どもたちや先生の声、そして彼らの奮闘ぶりを交えながら紹介します。

きめ細かな指導で子どもたちの個性を伸ばす

平成12年度から市独自の事業としてスタートした「少人数学習推進教員」と「健康推進教員」の配置事業。この事業を、単に児童生徒数が多いクラス対策と思われるている人も多いのではないだろうか。しかし、本当のねらいは、子ども一人ひとりのもっている個性を伸ばすことにあります。

学校の先生と推進教員が一体となって子どもたちへのきめ細かな指導を行うことで、一人ひとりがもっている力や個性を引き出そうというのが、市の進めている「個性を生かす教育推進事業」です。そして、この事業の力キを握っ

ているのが、「少人数学習推進教員」と「健康推進教員」です。現在は下表の小中学校に配置されています。

「少人数学習推進教員」授業が楽しくなった

少人数学習推進教員は、学級担任や教科担任の先生と一緒に学習指導をするだけでなく、朝の会や休み時間、給食も子どもたちと過ごします。また、部活動指導にも熱心に取り組むなど、常に子どもたちと身近に接しています。

「授業がわかりやすく、楽しくなった」。これは、推進教員の配置された学校の児童生徒から一番多く聞かれた感想です。

さらに先生からも、学校生活全般で、教員の目が児童生徒に行き届くようになったという声が数多く聞かれました。

子どもたちや先生の声からも、推進教員の配置による効果は確実に表れているといえそうです。

「健康推進教員」

保健室が心の居場所に

きめ細かな取り組みの一つに、健康推進教員の配置があります。児童生徒を心身両面から支援しようというもので、保健室の養護教諭とともに、子どもたちの世話をしたり、健康診断などの補助をし

ています。

推進教員を募集

市教育委員会では、平成15年度も、少人数学習推進教員と健康推進教員を募集します。

少人数学習推進教員は、小学校または中学校の教員資格を有する人が、14年度末までに取得見込みの資格を有する人が、14年度末までに取得見込みの人。健康推進教員は、養護教諭の資格を有する人が、14年度末までに取得見込みの人。

採用期間は、平成15年4月1日～16年3月31日です。

くわしくは学務課(☎20・1581)へ。

平成14年度推進教員の配置状況)は、配置人数

少人数学習推進教員

小学校 成田(1) 三里塚(2) 八生(1) 公津(1) 向台(1)
加良部(2) 橋賀台(1)
吾妻(1) 玉造(1) 中台(1) 神宮寺(1) 平成(2)
本城(1)

中学校 成田(2) 遠山(2) 久住(1) 西(2)
中台(2) 吾妻(1) 玉造(1)

健康推進教員

平成小(1) 西中(1) 中台中(1)

算数の時間が大好き！と子どもに言われ教材作りの疲れが吹き飛びました



小由佳先生 妻 荒川 吾

「このときはぎだらけのリサイクルの紙を合わせたものが何冊か分かりますか」と、手作りの教材を黒板に提示する荒川由佳先生。4年生の算数の授業「大きな面積」での授業風景の「1」コマですが、児童は1人しかいません。実はこの時間、吾妻小には二つの4年2組が存在します。担任とともに授業をする「4年2組」と、「二つして校舎の2階にある少人数学習室で授業を行う」「4年2組」です。



荒川先生は、ことしの4月から市の少人数学習推進教員となり、吾妻小に勤務しました。4校で勤務した経験を生かし、現在は3・4・5年生の算数を少人数授業で実施しています。

「少人数授業は、人数が少ない分、集中力が高まるし、子どもたちのノートにもたくさん、を付けてあげられます。算数の授業ではなるべくその子の進度に合わせたプリントを用意します。それと一人ひとりに『ほめる言葉』をたくさん掛けるようにしています」と荒川先生。教材作りに追われてばかりと言いがちですが「子どもたちに『算数の時間が大好き！』と言われると、疲れが一遍に吹き飛ばさなれます」と、自慢の手作り教材を手に話してくれました。

授業や部活動指導を通して得られた生徒との信頼関係を大切にしています



中貴先生 倉持清貴先生 貝塚智子先生

午後4時、放課後の部活動の時間がやってきました。成田中の体育館には、剣道部を担当する貝塚



智子先生、その2階には一目でそれと分かる柔道指導の倉持清貴先生の大きな姿が見えます。

倉持先生は1年生副担任として、また貝塚先生は3年生副担任として、それぞれ活躍しています。授業では、二人とも体育を受ければ、チームティーチングで指導に当たっています。彼ら推進教員が入る授業は、担当教諭や生徒たちの評判も上々です。そんな二人に、生徒との接し方を聞いてみると、

「朝や帰りの校門指導を通して、できるだけ多くの生徒と『ミニミニケース』をとるよう心掛けています」とは倉持先生の弁。また、貝塚先生からは「今の子どもたちは、心が弱いので、強い気持ちをもたせたいと考えています。剣道を通して心を鍛えることに力を入れていますね」との言葉が聞かれます。

高橋龍之校長も、「倉持先生は生徒たちから大変慕われていて、あの大きな体に、中学生の子とも



たちがぶら下がるんですよ。また貝塚先生も生徒からの信頼があつく、よく相談に乗ってくれています」と、目を細めて話してくれました。

二人に意気込みを聞いてみると「授業や部活動指導を通して得られた生徒との信頼関係を大切にしています」と、スポーツマンらしい言葉が返ってきました。貝塚先生も倉持先生も、成田中にとってはなくてはならない存在となってきたようです。

保健室が心のオアシスとなるよう日々心掛けています



中台 中 後藤 なつ子先生

ことし4月から、健康推進教員として中台中に勤務している後藤なつ子先生。生徒の健康観察チェック、保健便りの作成、健康診断の記録、そして保健室に来る生徒の対応などに忙しい毎日を送っています。後藤先生は休み時間にな

ると、仕事の手を休めて生徒との対話を心掛けています。その理由を尋ねると「保健室に来る生徒は、何かしらここに来る意味をもっています。自然な会話の中から生徒の悩みが見つかることもあるんですよ」と話してくれました。養護教諭の熊谷先生も、「後藤先生は年齢が近いせいか、生徒たちも話しやすいようです。お姉さんのように慕われていますよ」とうれしそうです。

「二で気持ちを送り出してあげようとしています。保健室が心のオアシスになってくれるといいですね」と話す後藤先生の笑顔が、中台中の保健室を明るくしてくれています。



市内には、この4人をはじめ総勢30人の推進教員がそれぞれの学校で活躍しています。日々、熱意をもって子どもたちにもにこにこ推進教員のがんばりに、今後も期待していきたいものです。